

# 現代日本政治論I

田中内閣

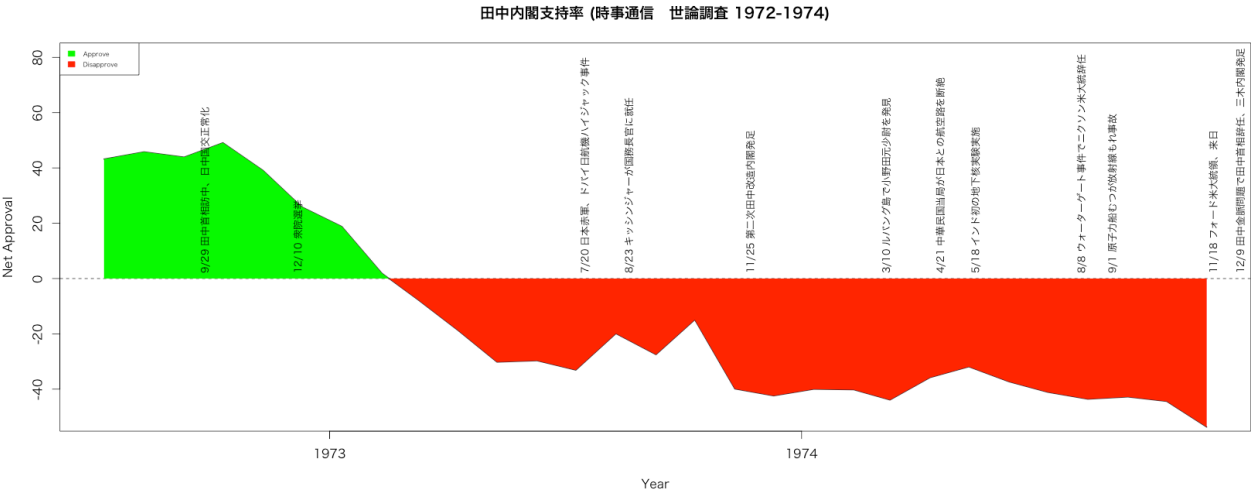
浅野正彦

1

総理大臣	内閣発足日	与党
鳩山一郎	1955.11.22	自民党
石橋湛山	1956.12.23	自民党
岸信介	1957.7.10	自民党
池田勇人	1960.7.19	自民党
佐藤栄作	1965.6.3	自民党
田中角栄	1972.7.7	自民党
三木武夫	1974.12.9	自民党
福田赳夫	1976.12.24	自民党
大平正芳	1978.12.7	自民党
鈴木善幸	1980.7.17	自民党
中曽根康弘	1982.11.11	自民党(+日本自由クラブ)
竹下登	1987.10.31	自民党

2

# 田中内閣 (1972.7.7-1974.12.9)



3

# 田中角栄の衆院選挙結果

. list year ku kun mag nocand rank party status wl previous votes voteshare if name == "TANAKA, KAKUEI", noobs

year	ku	kun	mag	nocand	rank	party	status	wl	previous	votes	voteshare
1947	niigata	3	5	12	3	dpj47	challenger	win	1	39043	14
1949	niigata	3	5	12	2	m-jiyu	incumbent	win	2	42536	14
1952	niigata	3	5	10	1	jiyu-a	incumbent	win	3	62788	17.7
1953	niigata	3	5	8	1	jiyu-y	incumbent	win	4	61949	17.7
1955	niigata	3	5	9	2	jiyu-b	incumbent	win	5	55242	14.8
1958	niigata	3	5	9	1	LDP	incumbent	win	6	86131	22.5
1960	niigata	3	5	8	1	LDP	incumbent	win	7	89892	23.4
1963	niigata	3	5	9	1	LDP	incumbent	win	8	113392	28.3
1967	niigata	3	5	7	1	LDP	incumbent	win	9	122756	31.3
1969	niigata	3	5	8	1	LDP	incumbent	win	10	133042	33
1972	niigata	3	5	7	1	LDP	incumbent	win	11	182681	42.1
1976	niigata	3	5	10	1	independent	incumbent	win	12	168522	37
1979	niigata	3	5	11	1	independent	incumbent	win	13	141285	31.1
1980	niigata	3	5	8	1	independent	incumbent	win	14	138598	30.2
1983	niigata	3	5	9	1	independent	incumbent	win	15	220761	46.6
1986	niigata	3	5	7	1	independent	incumbent	win	16	179062	40

4

● 日本の政治家  
**田中 角栄**  
たなか かくえい



内閣官房内閣広報室より  
公表された肖像写真

生年月日 1918年5月4日  
出生地 ● 日本 新潟県刈羽郡二田村  
(現：柏崎市)  
没年月日 1993年12月16日 (75歳没)  
死没地 ● 日本 東京都新宿区信濃町(慶應義  
塾大学病院)<sup>[1]</sup>  
出身校 中央工学校卒業  
前職 田中土建工業社長  
越後交通代表取締役社長・会長  
中央工学校校長  
所属政党 (日本進歩党→)  
(民主党→)  
(同志クラブ→)  
(民主クラブ→)  
(民主自由党→)  
(自由党→)  
(自由民主党→)  
無所属

● 日本  
**第64・65代 内閣総理大臣**

内閣 第1次田中角栄内閣  
第2次田中角栄内閣  
第2次田中角栄第1次改造内閣  
第2次田中角栄第2次改造内閣

在任期間 1972年7月7日 - 1974年12月9日  
天皇 昭和天皇

● 第33代 通商産業大臣

内閣 第3次佐藤改造内閣

在任期間 1971年7月5日 - 1972年7月7日

● 第67・68・69代 大蔵大臣

内閣 第2次池田第2次改造内閣  
第2次池田第3次改造内閣  
第3次池田内閣  
第3次池田改造内閣  
第1次佐藤内閣

在任期間 1962年7月18日 - 1965年6月3日

● 第12代 郵政大臣

内閣 第1次岸改造内閣

在任期間 1957年7月10日 - 1958年6月12日

● 衆議院議員

選挙区 新潟県第3区  
当選回数 16回  
在任期間 1947年4月26日 - 1990年1月24日

5

- 1918 新潟県刈羽郡二田村大字坂田(現：柏崎市)生まれ  
7人の兄弟姉妹で唯一の男児(他に姉2人と妹4人)  
田中家は農家  
幼少年時代に父がコイ養魚業で失敗→家産が傾き  
→ 極貧下の生活
- 1933 現：柏崎市立二田小学校卒業
- 1934 上京→井上工業に住み込みで働きながら、神田の中央工学校土木科(夜間部)に通う
- 1936 中央工学校土木科を卒業し、建築事務所に勤める
- 1937 独立して「共栄建築事務所」を設立
- 1938 満州国富錦で兵役
- 1941 飯田橋で田中建築事務所を開設
- 1942 事務所の家主の娘、坂本はなと結婚
- 1943 田中土建工業を設立、年間施工実績で全国50位入り
- 1944 長女真紀子 誕生
- 1946 第22回衆議院総選挙に進歩党公認で、新潟2区から立候補  
候補37人中11位(定数は8)で落選  
「三国峠を崩せば新潟に雪は降らなくなり、崩した土砂で日本海を埋めて佐渡まで陸続きにす  
ればよい」
- 1947 第23回総選挙(中選挙区制)新潟3区 民主党公認で立候補  
12人中3位(39,043票)で当選
- 1954 自由党副幹事長に就任 → 「吉田十三人衆」と呼ばれる側近の一人に
- 1955 保守合同

6

- 1957 第1次岸信介改造内閣で郵政大臣に就任 → 戦後初めて30歳代での国務大臣に就任  
テレビ局と新聞社の統合系列化を推し進めた  
→ 現在の新聞社 - キー局 - ネット局体制原型を完成  
官僚のみならず報道機関も掌握  
民放テレビ局の放送免許を郵政省の影響下に置いた → 飛躍の原動力に
- 1961 自由民主党政務調査会長
- 1962 第2次池田勇人内閣の改造で大蔵大臣
- 1965 大蔵大臣を辞任し、自由民主党幹事長に就任
- 1968 自民党都市政策調査会長として「都市政策大綱」を発表
- 1971 第3次佐藤栄作内閣の改造で通商産業大臣
- 1972 『日本列島改造論』を発表  
第1次田中内閣が成立  
初の大正生まれの首相、史上初の新潟県出身の首相  
内閣支持率調査で70%前後の支持
- 1972 日米首脳会談後に中華人民共和国を訪問 → 日中国交正常化が実現  
第33回総選挙  
自由民主党は過半数確保も議席減、日本共産党が躍進  
第2次田中内閣発足で挙党一致体制へ
- 1973 地価や物価の急上昇が社会問題化  
金大中事件発生  
朴正熙政権を支持するとの立場から、韓国側の一方的な政治決着を受け入れた  
第四次中東戦争から第一次オイルショックが発生  
→ 中東政策をイスラエル支持からアラブ諸国支持に転換

- 1974 東南アジア訪問  
インドネシアの首都ジャカルタで反日デモ(マラリ事件)に遭遇  
  
第10回参議院選挙  
議席は伸び悩み → 参議院は伯仲国会  
→ 三木武夫や福田赳夫が閣外へ去る  
  
月刊誌『文藝春秋』にて立花隆「田中角栄研究」  
→ 田中金脈問題を追及  
→ 首相退陣の引き金となる  
日本外国特派員協会での外国人記者との会見や国会で金脈問題の追及  
→ 第2次内閣改造後に総辞職を表明  
フォード米大統領来日して会談・・・現職アメリカ合衆国大統領の訪日は初
- 12月9日 内閣総辞職  
椎名裁定 → 三木内閣発足  
首相在職通算日数は886日

幹事長としての田中角栄  
(佐藤政権下 4年2ヶ月)

野党対策

日韓条約(1965年)

大学臨時運営法(1969年)

9

選挙を仕切る → 田中は勢力を拡大

豊富な政治資金、並外れた人心収攬能力

→ 他派閥、他党、官僚、マスコミへと田中びいきを増やす

田中にスキャンダルの噂

→ そのたびに福田赳夫が幹事長に起用

10

ビデオ:

[1972 佐藤首相引退会見](#)

[1972 沖縄27年ぶりの本土復帰](#)

[1972 連合赤軍浅間山荘事件](#)

11

佐藤首相の意中の人は福田赳夫

「総裁選でどちらが一位になっても、二位になった方はこれに協力して挙党一致を実現するように」 佐藤首相

➔ 田中も福田も承諾

中曽根康弘が総裁選不出馬を表明

➔ 田中陣営につく

12

## 田中内閣(1972-74)



13

## 田中角栄がめざした政治

「政策は自民党がつくり、政府がこれを実行する。これが政党政治のあるべき姿である。しかし、私たちの現状は、膨大な官僚機構に依存して、行政府の作った法案、政策のあと押しに甘んじる傾向が強い。これは官僚主導の政治であり、国民の求めているところが十分に反映されない政治である」

(早坂、『政治家田中角栄』の田中総裁談話より)

14

黒い霧の頃、田中は閑職

都市政策大綱を決定(1968年5月)

目的 → 都市改造と地方開発を同時進行

→ 高能率で均整のとれた国土を作る

→ 『日本列島改造論』を出版 (1967年6月)

15

### 田中の関心領域

1. 国土の有効な開発
2. 大企業よりも中小企業の発展
3. 社会資本の整備

16



## 1972年7月の総裁選挙結果

### 第一回投票

田中角栄・・・156  
福田赳夫・・・150  
大平正芳・・・101  
三木武夫・・・69  
投票総数・・・476

### 決選投票

→ 282 → 田中角栄総裁  
→ 190

もし中曽根が出馬していれば

→ 第一回投票では福田が一位 → 福田総裁の可能性

## 1972年7月の参院選挙結果

・・・自民敗北(全国区19, 地方区43、合計62)

1965年(合計71) → 1968年(合計69) → 1971年(合計63)

→ 三木副総理・環境庁長官が辞職

→ 福田蔵相が辞職

「進め進め一点張りの派手な政治に国民はついてこれない」  
首相を批判

→ 保利行政管理庁長官が辞職

役職		年齢	所属派閥
総裁	田中角栄	<b>54</b>	田中派
副総裁	椎名悦三郎	<b>74</b>	椎名派
幹事長	橋本登美三郎	<b>71</b>	田中派
総務会長	鈴木善幸	<b>61</b>	大平派
政調会長	桜内義雄	<b>59</b>	中曽根派
副総理	三木武夫	<b>65</b>	三木派
外務大臣	大平正芳	<b>62</b>	大平派
通産大臣	中曽根康弘	<b>54</b>	中曽根派

19

### 派閥別内訳

田中派・・・5

大平派・・・4

中曽根派、福田派、三木派・・・各2

椎名派、水田派、船田派・・・各1

福田派の意向を無視した、ごぼう抜き人事  
有力でない人物が、有力でないポストに起用

→福田派は「露骨な論功行賞人事」だと反発

「次の人事で修正する」という約束

→田中内閣は発足

20

## 田中内閣の政策

### 1. 日中国交正常化・・・岸、池田、佐藤政権がその実現を目指したが実現できず

野党 → 賛成

マスコミ → 賛成

自民党内 → 賛否両論

田中首相と大平外相 → 自民党内の異論を押さえた

北京を訪問して、日中共同声明に署名

→ 日中国交正常化 (1972年9月)

21

[ビデオ:1972 田中内閣成立・日中国交回復](#)

22

## 中国ブーム(1971年夏～)

→佐藤政権では日中関係の解決はできない

秘密主義でわかりにくい政治に人々はどうんざり

わかりやすく明確な政治を求め始めた

自民党の中間派リーダー → 福田を支持

自民党内の若手

→「佐藤亜流政権では次の選挙は戦えない」

1972年以降 → 自民党が田中支持に傾く

23

## 日中国交正常化

・・・講和条約、安保改定、日韓条約、沖縄返還に匹敵するほどの業績とはいえない

## 日中ブーム

・・・日本は長年、大陸と関係を持てないことに負い目

24

## 2. 日本列島改造

日本列島改造問題懇親会(田中首相の私的諮問機関)  
が作られた(1972年10月)

「工業の全国的再配置と高速交通・情報ネットワークの  
整備を意欲的に推進するとともに、既存年の機能の充  
実と生活環境の整備を進め、あわせて魅力的な地方都  
市を育成してまいります」

(懇親会での田中角栄首相の挨拶)

25

[ビデオ:1973 決断と実行の「列島改造」](#)

26

## インフレ

1972年後半の消費者物価指数・・・120

(1970年のそれを100とした場合)

地価・・・前年比全国平均で30%、首都圏では35%以上

➔ 田中内閣支持率の低下・・・20%以下

1972年4月、田中首相は突然、小選挙区制度の導入を主張

27

[ビデオ:1974 さよならミスター・ジャイアンツ](#)

28

### 3. オイルショックへの対応

1973年10月、第四次中東戦争  
OPEC加盟6カ国、石油戦略の発動  
日本を敵対国と認定  
石油供給の削減や石油の値上げを通告

➔ 日本でパニックを引き起こした

日本政府は急遽、アラブ諸国寄りに政策を転換し、敵対国の扱いを解いてもらう

しかし、それはアメリカ(=親イスラエル)の意向に沿わない

29

[ビデオ:1974 第四次中東戦争・石油ショック](#)

30

## 日本の戦後の高度成長を支えた条件

1. アメリカとの密接な関係
2. 安価な資源が自由に入手

← 「ニクソンショック」  
← 「オイルショック」

ダメージ

危機的状況に対応する政治的能力の欠落

愛知揆一大蔵大臣が急死

→ 田中総理が福田赳夫に蔵相就任を要請

福田は経済政策の根本的な見直しを条件に大蔵大臣に就任

日本列島改造論を棚上げにして、公共投資を厳しく押さえ込む方法

→ インフレは収束

31

1974年1月、田中首相は東南アジア諸国を歴訪  
フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア

日本帝国主義批判の激しいデモ  
インドネシアでは、ヘリコプターで脱出

その理由:急速に増大する日本の経済的プレゼンスと日本人の  
傲慢さへの反発

田中…東南アジア諸国の感情に気がつかなかった

32



ビデオ:

[1974 田中金脈問題・クリーン三木](#)

[1974 ロッキード事件・田中角栄逮捕](#)

33

立花隆「田中角栄研究」『文藝春秋』1974年11月号

様々な手法による田中の違法な資産形成過程が、決定的な事実の形で明らかにされた

田中はマスコミの操縦に自信をもっていた  
➔ 日本のジャーナリズムはしばし無反応

外国人記者クラブに田中首相が出席  
➔ 外国人記者による質問に答えられなかった

➔ 日本の新聞が動き始めた

34

田中首相はオーストラリア、ニュージーランド、ビルマを歴訪  
(1974年12月)

帰国後にフォード大統領を迎えるため内閣を改造

フォード大統領が帰国後、田中首相は退陣を表明